令和８年 １月30日	# 農作物病害虫発生予報 ２月	山口県病害虫防除所

～目　次～

Ⅰ　予報の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
Ⅱ　予報
【主要病害虫】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
【その他の病害虫】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
Ⅲ　参考（予報の見方、気象予報）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

Ⅰ　予報の概要

農作物名	病　害　虫　名	**予想発生量**	現　況	
			平年比	前年比
イチゴ	灰色かび病	やや少	やや少	多
	うどんこ病	少	少	前年並
	アブラムシ類	**多**	多	多
	ハダニ類	平年並	平年並	前年並
	アザミウマ類	平年並	平年並	前年並

お問い合わせ先
山口県農林総合技術センター（山口県病害虫防除所）
TEL (0835)28-1211 (代)
FAX (0835)38-4115
E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

Ⅱ　予報
【主要病害虫】

イチゴ

1　灰色かび病

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	多	発病初期

(2)　予報の根拠

ア　１月下旬の巡回調査では、発生ほ場率5.0%(平年13.0%)、発病株率0.1%(平年1.2%)、発病果率0.0%(平年0.2%)で平年に比べやや少なかった（－）。

イ　気象予報では、２月の気温は平年並か低く、降水量は少ない（－）。

(3)　防除対策

＜耕種的防除等＞

ア　多湿条件で発病が助長されるため、換気等により施設内が多湿にならないよう努める。

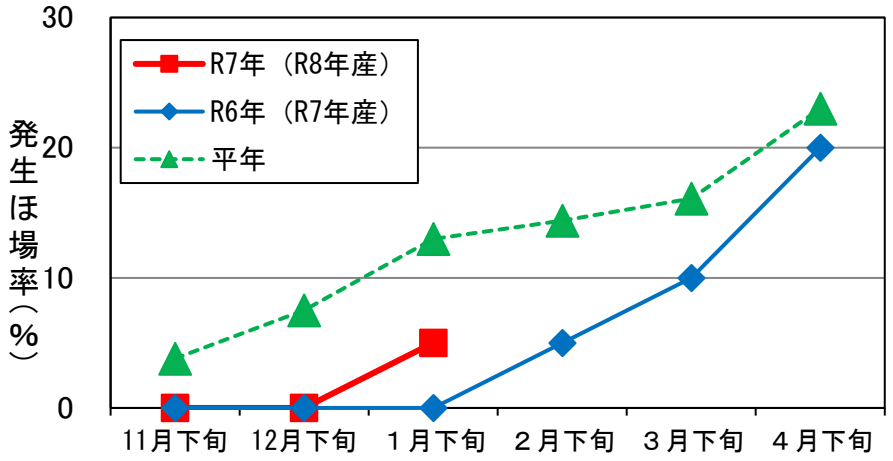
イ　被害果等は伝染源となるので、早期に取り除き、ポリ袋等に密封してほ場外に持ち出し、焼却や土中に埋めるなど適正に処分する。

ウ　窒素過多による軟弱、過繁茂な生育が発生を助長するため、適正な施肥管理に努める。

＜防除のポイント＞

ア　ベンゾイミダゾール系剤（トップジンM）、ジカルボキシイミド剤（スミレックス、ロブラール）、SDHI剤（アフェット、カンタス）、QoI剤（アミスター）及びポリオキシン剤は耐性菌が出現しているため、薬剤散布後に防除効果が劣る場合は他の薬剤を使用する。

イ　薬剤耐性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。



イチゴ灰色かび病の発生推移

２　うどんこ病

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期
	平年比	前年比	
少	少	前年並	発病前、発病初期

(2)　予報の根拠

ア　１月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年11.0%）、発病株率0%（平年1.2%）、発病葉率0%（平年0.2%）、発病果率0%（平年0.1%）で平年に比べ少なかった（－）。

(3)　防除対策

＜耕種的防除等＞

被害茎葉、被害果は伝染源となるので、施設外に持ち出し処分する。

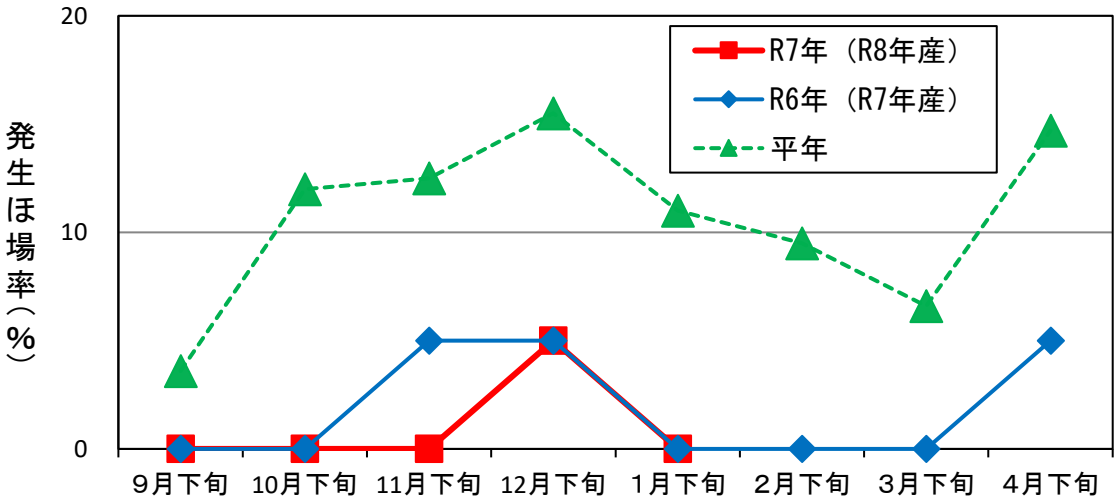
＜防除のポイント＞

ア　本病は、発病初期には葉裏に発生しやすいため、葉裏をよく確認し、早期発見に努める。

イ　予防防除と発病初期の防除に重点をおき、薬液が葉裏や新芽にも十分かかるよう、古葉を除去して丁寧に散布する。

ウ　薬剤散布後は防除効果を確認し、その後も発生が認められる場合は、約７日おきに１～２回薬剤を追加散布する。また、アゾキシストロビン剤（アミスター）は耐性菌が出現しているため、効果が劣る場合は他の薬剤を使用する。

エ　薬剤耐性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。



イチゴうどんこ病の発生推移

3　アブラムシ類

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	発生初期

(2)　予報の根拠

ア　下旬の巡回調査では、発生ほ場率45.0%(平年20.5%)、寄生株率13.4%(平年4.2%)で平年に比べ多かった（＋）。

イ　気象予報では、２月の気温は平年並か低い（－）。

(3)　防除対策

＜防除のポイント＞

ア　現在、多発しているほ場では、速やかに防除を実施する。

イ　薬剤散布時は、葉裏までムラなくかかるよう十分な量の薬液を散布する。

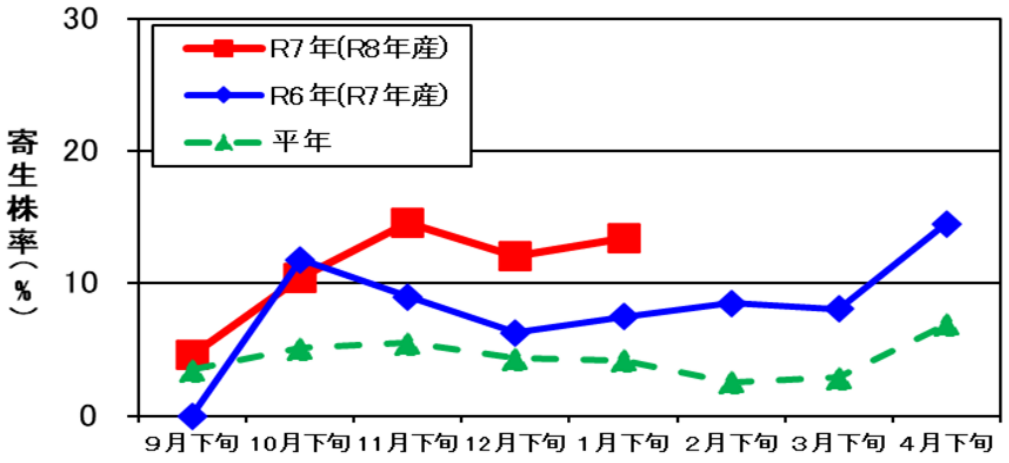
ウ　薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

エ　薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。

オ　ハダニ類の天敵（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）を放飼している場合は、影響の少ない薬剤（サフオイル、ウララ、コルト、ベネビア等）を使用する。

（山口県農作物病害虫・雑草防除指導基準－ミツバチの訪花活動に対する農薬の影響を参照）

（https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/123673.pdf）



イチゴのアブラムシ類の発生状況

4　ハダニ類

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期

(2)　予報の根拠

ア　下旬の巡回調査では、発生ほ場率35.0％(平年38.0％)、寄生株率18.7％(平年12.1％)で平年並みであった（±）。

イ　気象予報では、２月の気温は平年並か低い（－）。

(3)　防除対策

＜防除判断＞

ア　ハダニ類は体長が0.5㎜程度と小さく確認しにくいため、ルーペを使用して葉裏を確認する必要がある。

イ　摘除した下葉10枚程度を白い紙袋に入れ、室内に１日おくと翌日にはハダニは新鮮な葉を求めて移動し、紙袋の上部に集まるため容易に観察できる。

（イチゴのハダニ簡易調査方法
https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/61954.pdf ）

ウ　ハダニ類は部分的に発生することがあるので、ほ場全体をよく観察し、発生を認めたら直ちに防除を行う。

＜防除のポイント＞

ア　薬剤防除の前には、薬剤が葉裏まで十分かかるように下葉を除去する。また、除去した下葉は、ほ場外に持ち出し適正に処分する。

イ　気門封鎖剤を使用する場合は、その多くがハダニ類の卵には効果が低く、残効性がないため、７～10日間隔で散布する。

ウ　薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。化学農薬に対する抵抗性が発達しているため、散布後に効果を確認し、十分な効果が認められない場合は、気門封鎖剤を中心に防除を行う。

エ　天敵（ミヤコカブリダニ）を利用している場合は、次のことに注意して使用する。

（ア）天敵に影響の少ない薬剤（マイトコーネ、ダニコング、スターマイト、ダニオーテ等）を使用する。

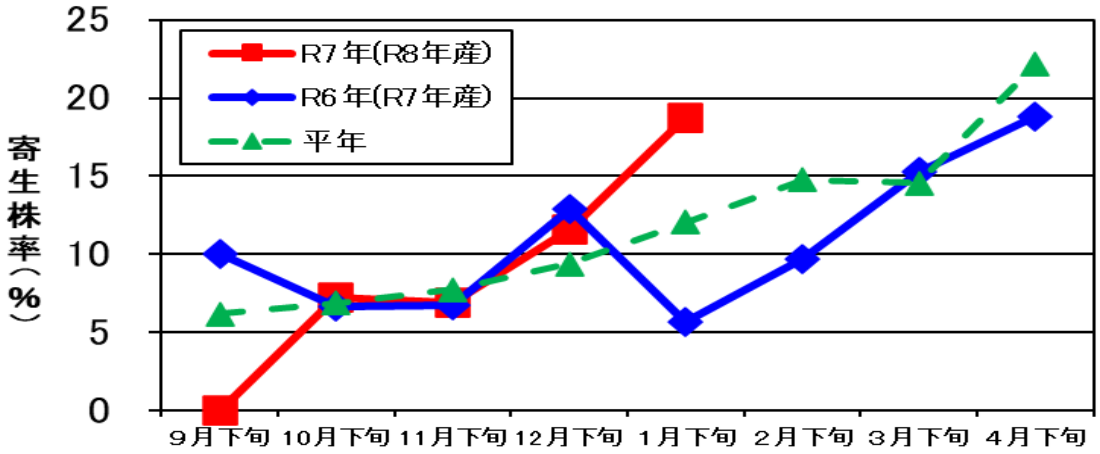
（イ）硫黄のくん煙は１日２時間程度とする。

※　放飼方法、放飼後の管理についてはメーカーホームページを参照

オ　開花期以降の薬剤散布は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。

（山口県農作物病害虫・雑草防除指導基準－**ミツバチの訪花活動に対する農薬の影響**を参照）

（ https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/123673.pdf ）



イチゴのハダニ類の発生推移

5　アザミウマ類

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期

(2)　予報の根拠

ア　下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.0%(平年14.0%)、寄生花率0.2%(平年0.6%)で平年並みであった（±）。

イ　気象予報では、２月の気温は平年並か低い（－）。

(3) 防除対策

＜防除判断＞

ア　気温が高くなると施設外からの侵入が増加し、施設内でも急激に増殖するため、こまめにほ場を見回り、寄生花率が10%を超えている場合には、直ちに薬剤を散布する。

イ　アザミウマ類は体長2mm程度と小さく、花の中に潜っているため、息を吹きかけてルーペ等で確認する。

＜防除のポイント＞

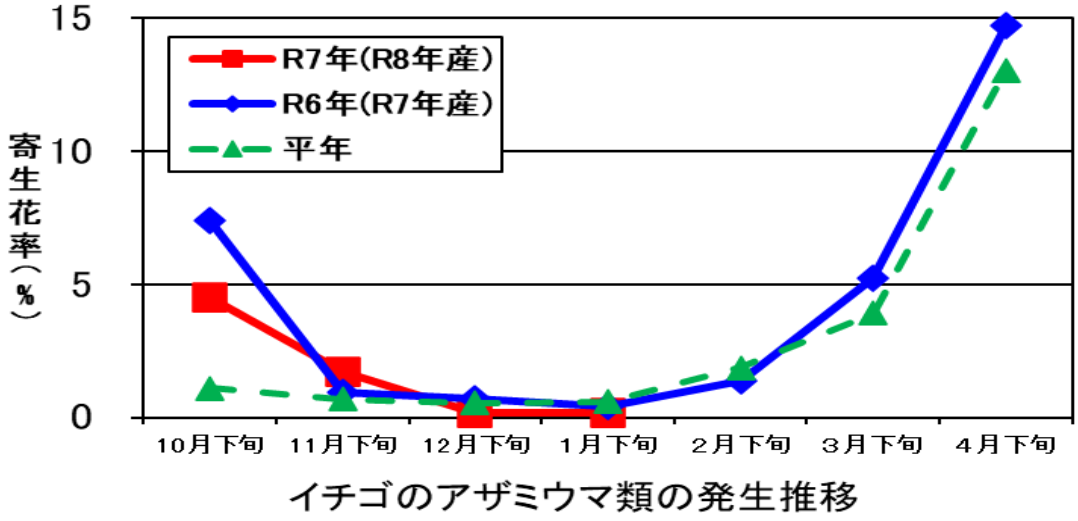
ア　薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。一部の剤（ネオニコチノイド系剤等）に対する抵抗性が発達しているため、散布後に効果を確認し、十分な効果が認められない場合は、他系統の剤に変更し、再度防除する。

イ　天敵・訪花昆虫に影響の少ない脱皮阻害剤（IGR剤、IRAC:15）は、幼虫の生育を阻害し、成虫は未ふ化卵を産むため次世代の発生を防止できる。

ウ　薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。

（山口県農作物病害虫・雑草防除指導基準－**ミツバチの訪花活動に対する農薬の影響を参照**）

(https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/123673.pdf)



【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年(%)	平年(%)	
イチゴ	コナジラミ類	少	少	前年並	0	18.8	

Ⅲ　参考

1　予報の見方

(1)　病害虫発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア　平年比

多	やや多いの外側10％の度数の入る幅
やや多	平年並の外側20％の度数の入る幅
平年並	平年値を中心として40％の度数の入る幅
やや少	平年並の外側20％の度数の入る幅
少	やや少ないの外側10％の度数の入る幅

注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

イ　前年比

多	平年比の５段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃　　前年の評価より少ない発生
前年並	〃　　前年の評価と同等の発生（上記２項目を除くもの）

(2)　病害虫発生時期の基準（原則として過去10年間の発生時期と比較）

早　い	過去10年間の平均値より６日以上早い
遅　い	〃　　より６日以上遅い
やや早い	〃　　より３～５日早い
やや遅い	〃　　より３～５日遅い
平年並	〃　　を中心として前後２日以内

注：ウンカ類は1971年以降、コブノメイガは1985年以降の初確認日と比較（半旬毎）

(3)　予報根拠における発生要因の評価基準

＋	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
－	発生を抑制する要因

2　気象予報

(1)　概要

１か月気象予報（1月22日福岡管区気象台発表）

予　　報	低　い（%） 少ない	平年並（%）	高　い（%） 多　い
気　　温	４０	４０	２０
降 水 量	５０	３０	２０
日照時間	２０	４０	４０

週ごとの気温傾向

予　　報	低 い（%）	平年並（%）	高 い（%）
１ 週 目	３０	５０	２０
２ 週 目	５０	４０	１０
３～４週目	３０	３０	４０